

感染経路別予防策の 勉強会のあり方

医療法人社団 喜生会 新富士病院

○ 加藤 あや(看護師)

MD 川上 正人

MD 中島 一彦

喜生会 概要



◆新富士病院

- 病床数:206床(20:1)
- 診療科目:
内科・神経内科・消化器内科・
腎臓内科・皮膚科・歯科・
リハビリテーション科・
透析センター
- 療養病棟入院基本料 I

◆併設施設

- 介護老人保健施設
ヒューマンライフ富士 定員195人
新富士ケアセンター 定員104人
- 通所リハビリテーション
ヒューマンライフ富士 定員60人
新富士病院 定員20人
- 安心みまもりセンター(在宅系事業所)
訪問看護ステーション「喜」、訪問介護、
居宅介護支援等
- 健康管理センター



目的

- 職員の感染対策へのモチベーションが向上し、積極的に勉強会に参加することを期待する。
- 復習の必要性が分かり、感染対策の知識・技術が身に付く。



方法

- 経路別感染予防策についてのH23年度のアンケートを一部修正し、自作アンケートを作成。
- 療養病床看護・介護職員対象にアンケート調査を実施。

アンケート内容

- ・感染対策マニュアルの活用状況
- ・感染症にかかるという危機感の有無
- ・勉強会について→希望する場所・時間
- ・空気感染・飛沫感染・接触感染について
→感染経路・代表的感染症・感染対策
- ・N95マスクとサージカルマスクの違い、正しい使用方法
- ・ガウンテクニックの正しい使用方法、清潔・不潔の区別

- アンケートと院内感染対策マニュアルを基にカラーやイラストを用いた勉強会資料を作成し、プロジェクターを使用した勉強会を実施。

* 勉強会内容:前半(4回):経路別感染とは、
経路別感染予防策について
後半(3回):個人用防護具の着用方法
(デモンストレーション)、
手指消毒の必要性について

- プロジェクターを使用し、一回所要時間10～15分とする。
ナースセンター内、9時～・11時～・16時～と
当日の予定に合わせて実施。
その後、再度アンケート調査を実施。
- 勉強会前後のアンケートを比較しデータを算出、
またH23年度のアンケートとの比較。

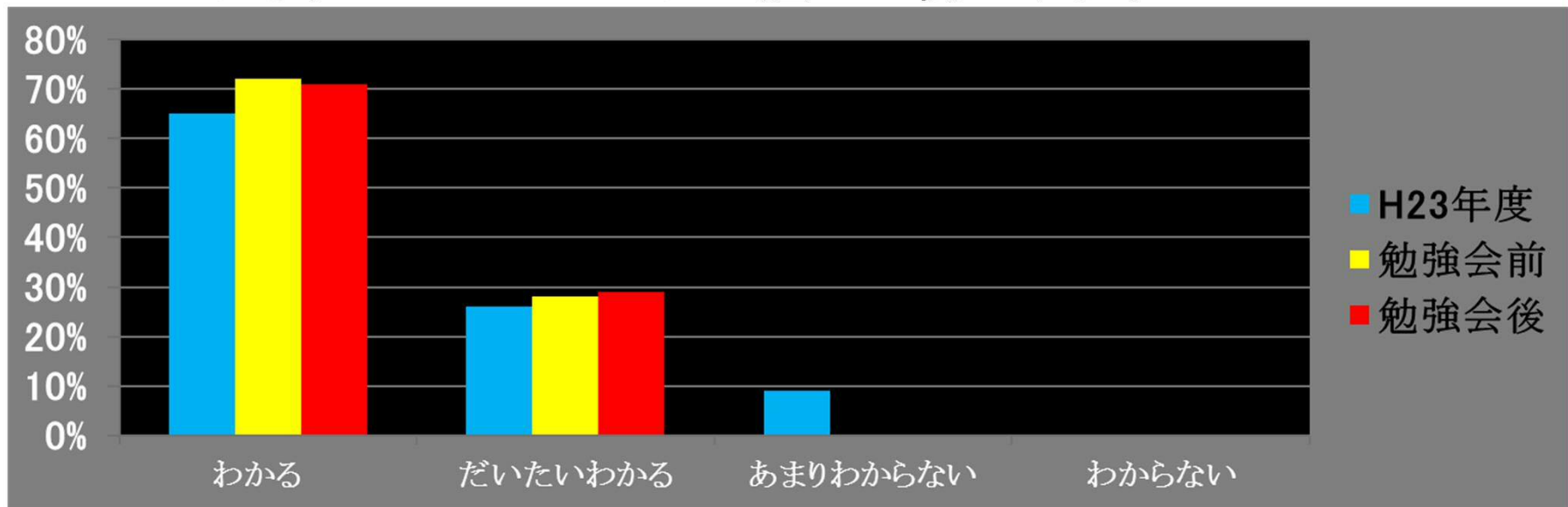


結果

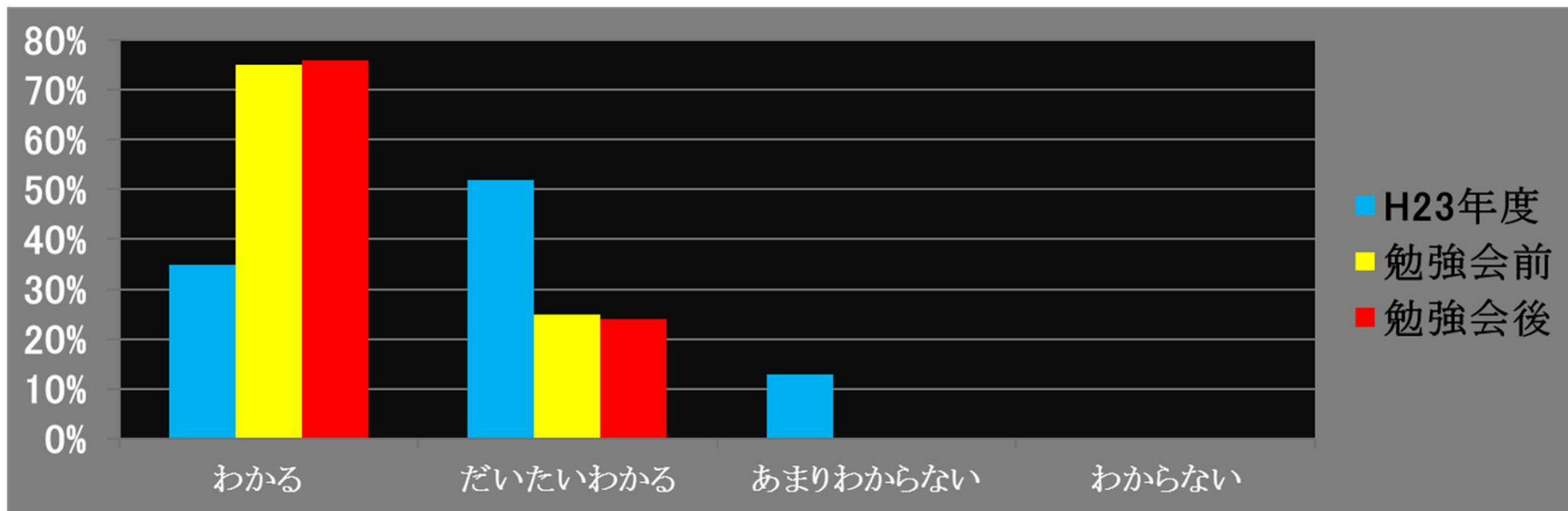
勉強会方法の比較

	H23年度	H24年度
資料	文字が多い 白黒資料を配布	文字は大きく カラー、イラスト資料配布 プロジェクター使用
所要時間	11時～、15時30分～(15分間)	9時～、11時～、16時～(10～15分間)
回数	6回	7回
デモンストレーション	なし	あり

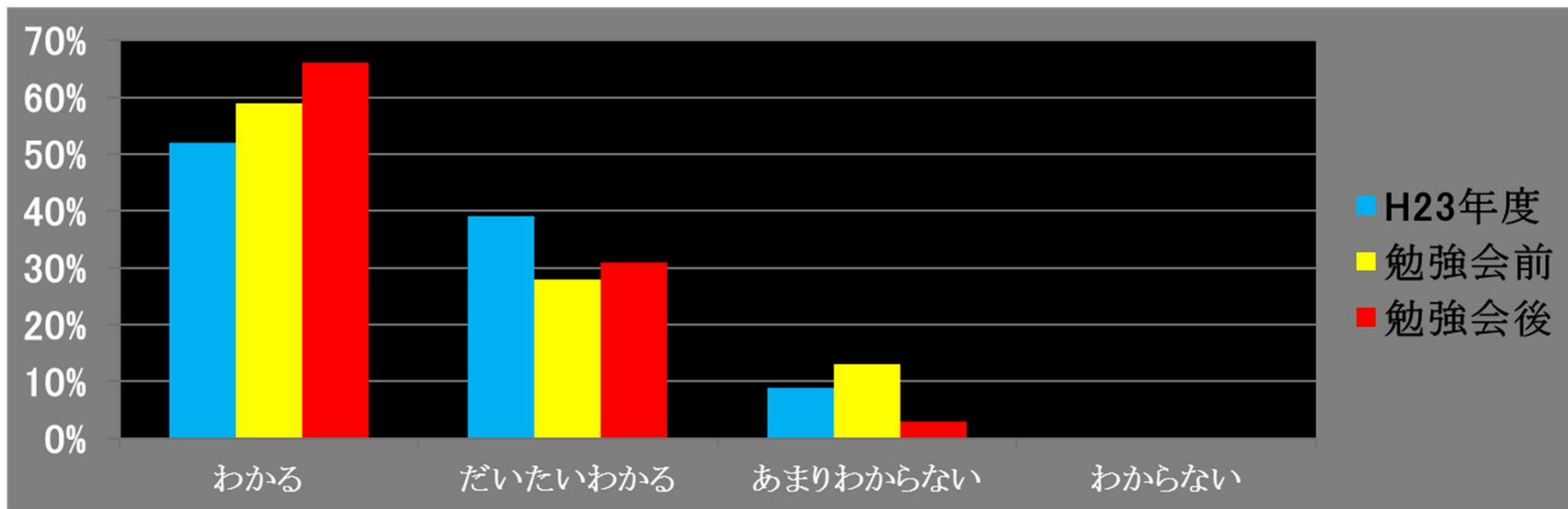
N95マスクとサージカルマスクの違いがわかりますか？



N95マスクの正しい使用方法が分かりますか？



ガウンテクニックの清潔・不潔の区別が分かりますか？



考察

☆記憶効率を高める7つの方法

①動機 ②分量 ③観察 ④理解 ⑤連想 ⑥繰り返す ⑦想起

○高齢者:清潔行動が得られにくい
感染症罹患率が高い

😊 感染対策の主力⇒看護・介護職員

・専門職としての責任感
・感染の伝播経路となりうる可能性

動機

○勉強会を前半・後半に分け、一回にかける時間の削減

分量

○イラストによる見やすいスライド

観察

○繰り返しの勉強会

知識向上

結論

- 五感を活用する。
- 勉強会に参加する動機付けを行う必要がある。
- 継続し勉強会を行う為の管理者を設置する。



交代制勤務における アロマセラピーの効果

医療法人社団 喜生会 新富士病院

看護師 佐野由紀 MD 川上正人 MD 中島一彦

喜生会 概要



◆新富士病院

•病床数:206床(20:1)

•診療科目:

内科・神経内科・消化器内科・

腎臓内科・皮膚科・歯科・

リハビリテーション科・

透析センター

•療養病棟入院基本料

◆併設施設

•介護老人保健施設

ヒューマンライフ富士 定員195床

新富士ケアセンター 定員104床

•通所リハビリテーション

ヒューマンライフ富士 定員60人

新富士病院 定員20人

•安心みまもりセンター

訪問看護ステーション、訪問介護、

居宅介護支援事業所、福祉用具貸与、

在宅介護支援センター

•健康管理センター

研究目的

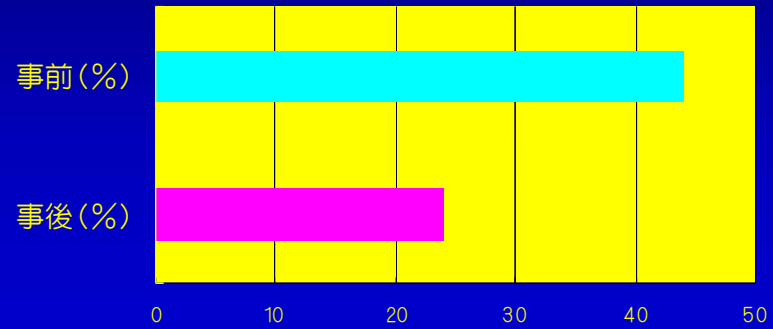
不規則な勤務形態による睡眠状況と
ストレスの現状を知り、アロマテラピーによる
眠りを促進させる・気分を落ち着かせる作用を
利用し、当院において、良眠を促す効果・
ストレスの緩和につなげる効果を得られるのか
検証する。

研究方法

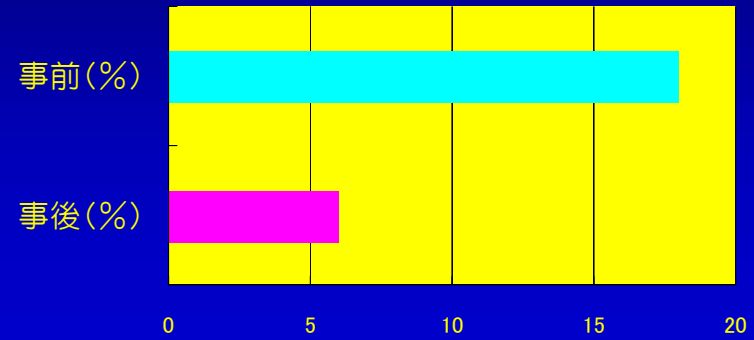
- 実施期間 平成23年12月～平成24年1月
- 対象者 新富士病院 本館2階 (34名)
- 調査方法
 - ① 事前アンケート実施
 - ② 3種類のアロマスプレーの中から好みの香りを選んで寝る前や、気分転換を図りたい時に利用
 - ③ 1ヵ月後、事後アンケートの実施
- 使用した精油と効能
 - ① ラベンダー 鎮静・催眠・自律神経調節作用
 - ② オレンジ・スイート 鎮静・精神高揚作用
 - ③ 上記の2種をブレンドしたものを使用
- アロマスプレーの作り方
 - 精油10滴 無水エタノール5ml 精製水45mlを容器に入れ、よく混ぜて使用

結果

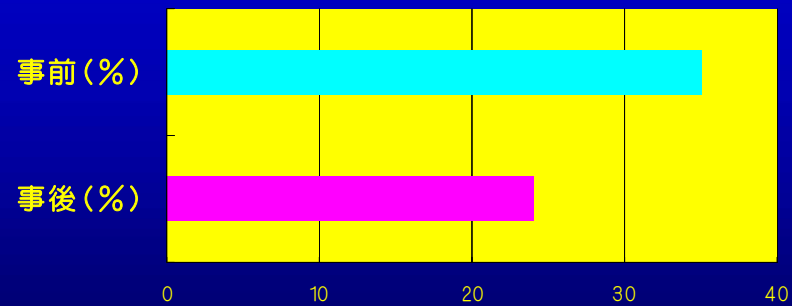
目覚めが悪い



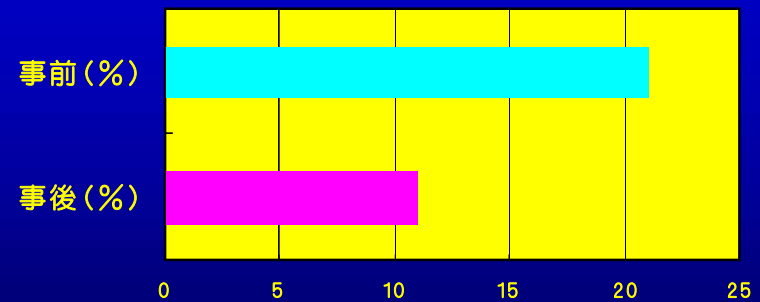
寝つきが悪い



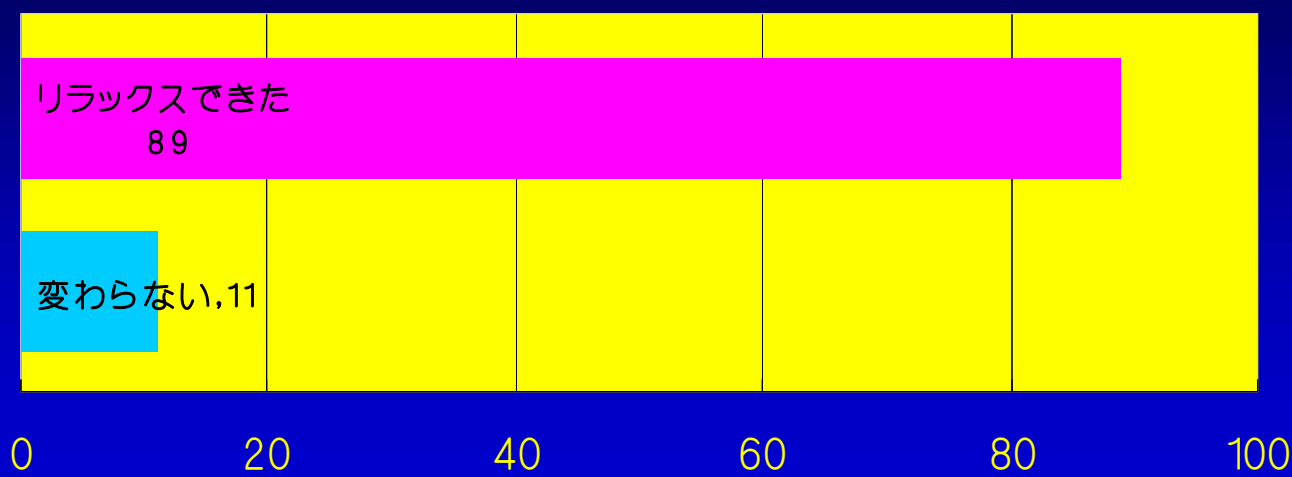
眠りが浅い



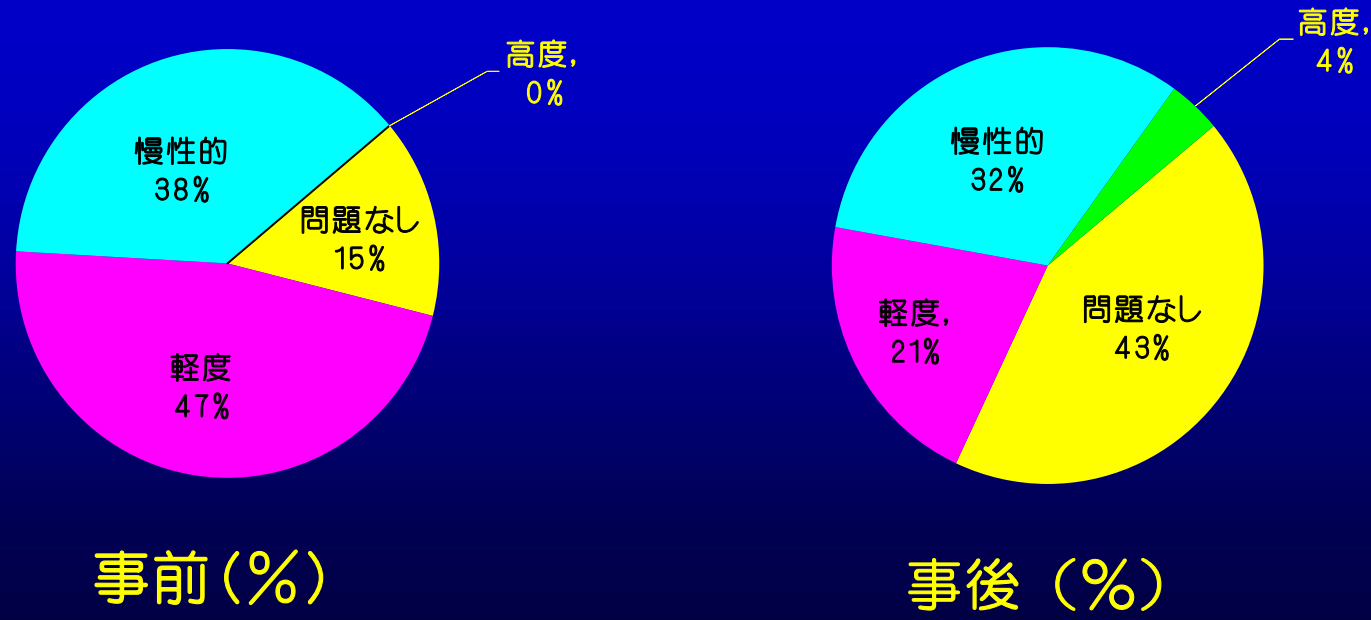
中途覚醒する



アロマスプレー使用後の変化



ストレス度の比較



考察

- アロマセラピーの作用 鎮静・催眠・自律神経調節作用



- 過剰な自律神経の緊張が緩和



- セルフケア導入にて、質の良い睡眠確保・ストレスの緩和



- 体力・精神的にもバランスを取り戻すことができる



- 仕事へのモチベーション上昇に繋がる

結論

- ストレスを蓄積することで、睡眠のコントロールが不良となり仕事へのモチベーションが下がるという、悪循環を引き起こす。
- 睡眠とストレスの関係性は、相対しているため、どちらか一方が、上手く調節できないとバランスが崩れやすい。
しかし、アロマセラピーはどちらにも作用する。
- アロマセラピーは、心身の疲労回復に効果を得られやすく、香りを嗅ぐだけと手軽で、セルフケアをしていく方法としても取り入れやすい。